

杉本光作氏の手紙

昭和三八年二月九日付

学長様

一面識もない私が、突然御節介なことを申上げる失礼を御ゆるして下さい。

先ず初めにこの度の薬師岳の遭難事故に就て心から御見舞申上げます。山を愛好する私にとつても誠に胸の傷む出来事でありました。過去に何回かこうした悲しい山の遭難を体験して、います私には御遺族の皆様、関係当事者各位の御悲嘆、御心労の程も察せられて唯々御同情申上げる次第であります。

山の遭難はマスコミで騒ぎたてる様な華やかなものではありません。冷厳で、悲惨で無情なものであります。殊に遭難の解決が長期に亘る場合程惨めでいらいらしいものはありません。今後雪消えを待つて捜査を続けられることと思いますが、御遺族の御気持に引づられることなく冷静に捜査方針をたてられる様御願ひ致します。

遭難原因の何一つが判明していない現在、批判は一切差控えさせていただきますが私の経験を二、三申上げます。何かの御参考になれば幸いです。

るだけ使用しないことです。彼等の多くは結局金で動く人達で決して山を深く知っていないからです。最初の捜査はこうしたこじんまりした、然し捜査に熱意と闘志をもった捜査隊とすべきです。決して御祭り騒ぎや華やかにやるべきではありません。遺体発見の場合は遺体搬出のため土地の人夫を使用するなり必要な人員を派すなり、また場所によっては遺族の同行も許すべきです。不幸未発見の場合は日を改めて大々的な搜索を二次、三次と広めて行くべきです。こうして捜査が長期に亘るとややもすれば御遺族の感情に支配され勝ちですが冷静の上にも冷静な処置行動が必要であります。

さて私は四〇年山を登って参りました。山の美しさ、それにもまして山を登る人達の心の美しさにひかれていたからで。軍隊のなくなった現在若い人達の心身の錬成場所としても山こそ最適とも思っています。ツイストや麻雀に過すよりは、大自然に接する方がどんなに良いかは判然としています。山は苦勞の多いものです。その苦しみに困難に打克つところに登山の爽快味があるのです。そして、この苦しみに打かつ精神がやがて社会に出たとき何等かの形でその人のためにプラスになり、社会のためにも寄与するところに登山の意義があるものと信じています。また登山とは自分の足で一步一步登るもので段階を経

パーティー一三君全員が遭難すると云うことは常識では考えられません。雪崩にやられる場合の他全員遭難はあり得ない筈です。薬師岳から太郎兵衛平にかけては幅広い尾根で雪崩の危険の少ないところとされています。然し冬山で積雪があつたら何処に雪崩が出るかは予測しがたいのです。雪崩が出ないときとされているところで雪崩にやられた例は沢山あります。ことに吹雪を避けて尾根からはなれたら至るところ雪崩発生の可能性があります。

第三キャンプと薬師岳の間で吹雪のため全員凍死による遭難と致しますとこれは甚だ申憎いことではありますが山岳遭難としては最低の遭難であります。但しこの方が捜査の時にはるかに容易の筈であります。万一沢筋に入つて雪崩にやられている様な場合は捜査が非常に困難になると思われまます。

捜査は五月頃になると思われますが多数人数による大々的なものよりは少数精鋭主義をとるべきだと思います。冬山経験一〇年以上の統率力のあるベテランをリーダーに秀れた人達のみ五人程度にすべきです。チームワークが大切ですから出来れば学校関係者だけで組織された方が良いと思います。御遺族の中から同行を申出る方もあると思いますが、余程の山の経験者でない限り同行すべきではありません。土地の案内人や人夫は出来

なければなりません。小学生がいきなり大学に入つたら殆んどは落伍をするであらましよう。

登山も全く同じであります。低い山から自分に合った山へと次第に高い山に向うべきが常識です。誰れしも目標はヒマラヤの様な高峻山岳ですが、一足とびに高峰にいどんでは失敗のもとであります。山での失敗は即、死であります。易きから難きにこれが登山をする者が厳に守らねばならない原則であります。ところが日本山岳会のマナスル登頂以来、日本の登山界は大きく変わってまいりました。

即ち登山とは雪、氷、岩以外にはなく低山や尾根歩き、峠越え、高原歩きは登山ではないとの見方です。登山をスポーツとして高踏的な登山のみを目標としています。従つて理論のみ先行して実践が伴っていません。無責任な山岳書のはんらん、理論のみの各種山岳講習会等々(雪崩を知らない人が堂々と冬山講習会の講師になっている笑えない事実もあります)こうした傾向が現在日本登山界の風潮です。こうした結果、山を始めて一、二年の人がいきなり三、〇〇〇メートルの冬山に出かけています。恐しい事があります。天候さえ良ければ事故もありませんが、山は何時も晴天とは限りません。一度自然が荒れますと人間の力なぞ極めて微力であります。山の遭難が益々多くなるのも当

然であります。如何なる悪天候下にも適宜の処置がとれ、無事に山を下りてこられるのは経験を積んだ登山者だけです。

残念ながら今回薬師岳遭難の貴校のパーティー一三君も結局前者の域を脱していない様であります。死者に鞭打つ様であります。あの太郎兵衛小屋に乱雑に放置されたリックや食器類の写真を見ただけで一三君の山の経験、実力の程を識ることが出来るからです。冬の三、〇〇〇メートルの山に登るときには、冬山一〇年の経験者をリーダーとすべきです。一三人のパーティーには更に五年以上の経験を有するサブリーダー二人以上が必要でです。

山は苦しみに行くところ楽しみに行くところではありません。謙虚な気持で自然に親しみに行くところです。精神面を忘れて流行を追いレジャーを楽しむ山登りは敵に戒しむるべきです。残念ながら現在の登山は全く流行とレジャー化しつつあります。薬師岳遭難の遠因は、こうした日本登山界の風潮にあると思います。

これを機会に私は日本登山界をリードする指導者諸氏に、徒に名に走ることなく、この際強い自粛と深い反省を望んでやみません。私は、今後も私の所属する山岳会を通じて、或は新聞、雑誌を通じてこの運動に微力を尽す積りで居ります。

同送の遭難報告書は何れも私の関係したものであります。御遺族の方には涙を新にするものがあるかとも思いますが、御一読願えれば幸甚であります。山に行く子をもつ家庭が正しい山を認識されることが山の遭難防止に大きく役立ち、正しい日本の登山を発展させる上にも大きい力があると思うからです。唯一つ甚だ身勝手な御願ひであります。遭難報告書中の「石楠花」は当時としては最大の遭難でありました。私、責任者といたしまして世の非難攻撃の中で、文章は極めて下手であります。心血をそそいで編集したものです。しかし、戦災なぞのため現在この一冊しか残っておりません。私にとりましても所属の山岳会にとりましても貴重な一冊で御座いますので御一読の後(急ぐ必要はありません、御遺族に御廻しても結構です)何時の日にか「石楠花」だけ御返送願えれば有難いのですが、誠に手前勝手に申わけありません。

突然御節介な差出がましいことを申のべて失礼の段重ねて御わび申上げます。この遭難捜査が無事に一日も早く完結することを御祈りいたし、皆様が気落ちすることのない様御願ひして御筆いたします。

同封の金円誠に僅少ではありますが遭難費用の一部に御加え下されば幸いです。